

不断の評価と改善



中村 哲己

一般社団法人建設コンサルタント協会 会長

令和7年となりました。皆様、あけましておめでとうございます。

昨年の1月の令和6年能登半島地震そして9月の奥能登豪雨で、能登地域では多くの方がその犠牲となり被災されましたことに対し、心からのお悔やみと一日も早いご回復をお祈り申し上げます。インフラの整備・保全に従事するものとして、国土強靱化には不断の評価と改善が不可欠との認識を、改めて強くしております。このような状況を踏まえ、協会の取り組みについて述べたいと思います。

要望と提案

昨年の要望と提案は、これまでの4本の柱から、「はじめに」と5本の柱としました。「はじめに」では、「魅力ある業界を目指して」と題し、事業量の拡大及び成長と分配の好循環の実現などを集約しました。次に、迅速かつ適切な「災害対応」が重要と再認識し、これを柱の一つとしました。これにより「担い手の確保・育成」「技術力による選定」「品質の確保・向上」「災害対応」「DX推進」の5本の柱としました。この成果として、技術者単価の12年連続アップ、低入札調査基準価格の上限アップ、納期平準化目標達成に向けた翌債・国債の活用、若手・女性・シニアの活用・育成制度の改善、歩掛の改善、品質の確保・向上に向けたチェックシートの活用などが挙げられますが、残された課題も数多くあります。

今年は、昨年の成果並びに課題を踏まえ、本部、各委員会、各支部並びに会員企業の皆様のご意見を反映して作成していきます。特に、技術者単価・業務価格・低入札調査基準価格のアップ、そして事業量のさらなる拡大等を、引き続き強く要望・提案してまいります。

種々の協会活動の実施

今年も昨年と同様に、各部会及び各委員会の諸活動の実施とともに、各支部の諸活動を支援してまいります。活動内容は、第三次中期行動計画2023～2026に基づくもの

ですが、社会情勢の変化を評価し、柔軟に対応していきたいと考えています。

建設コンサルタントには、社会情勢を的確に把握し、国民が豊かさを実感できるインフラ整備の計画策定を支援する重要な役割が期待されています。そのためには、常に働き方を改善し、技術力と成果の品質を高め、その結果を評価し改善につなげなくてはなりません。

以上の自覚と責任をもって、今後も諸課題の解決に向けて、活動していく所存です。

建設コンサルタントビジョン2025

2023年7月に建設コンサルタントビジョン2025検討委員会を立ち上げ、ビジョン策定に向けて活動を続けています。

昨年の5月にビジョン一次案を作成し、協会内外に意見照会を行ってきました。現時点でのビジョンの骨子を整理すると、「未来の社会資本の在り方を予想し、そこで多様化が想定される建設コンサルタントの役割を明確にし、その担うべき役割を発揮するためのイノベーションの在り方を示し、ビジョン2025の目標とその達成に向けたロードマップを指し示す」と、このような内容になっています。少子化による人口が減少した未来では、インフラの担い手は減少します。またインフラ整備のニーズとシーズも変化します。そのような中で、役割を踏まえた人を確保・育成し技術を拡大・深化できるかが問われています。

今後も意見交換や意見照会を行い、今年度の4月までに最終案を作成し、常任理事会で審議して承認を頂き、5月の総会において、新ビジョン2025を発表したいと考えていますので、引き続きよろしくお願いいたします。

以上の取り組みは、各委員会及び各支部並びに会員企業の皆様のご協力なしには進みません。不断の評価と改善の取り組みを、一緒に推進していきましょう。皆様方、今年も引き続きご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。